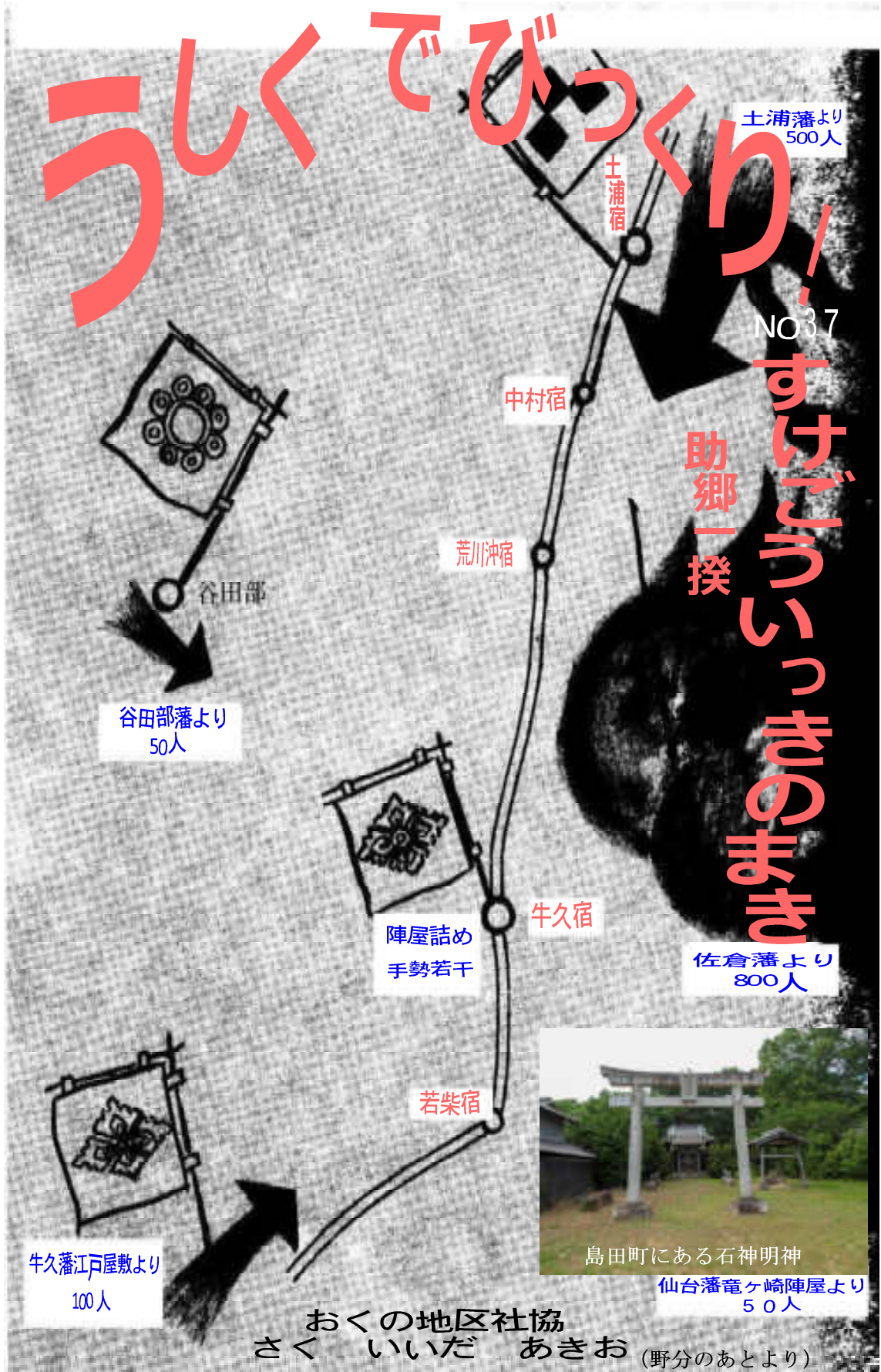


うしくでびっくり!

NO37

助郷一揆

すけごういつきのまき



土浦藩より
500人

土浦宿

中村宿

荒川沖宿

牛久宿

陣屋詰め
手勢若干

若柴宿

谷田部藩より
50人

谷田部

牛久藩江戸屋敷より
100人

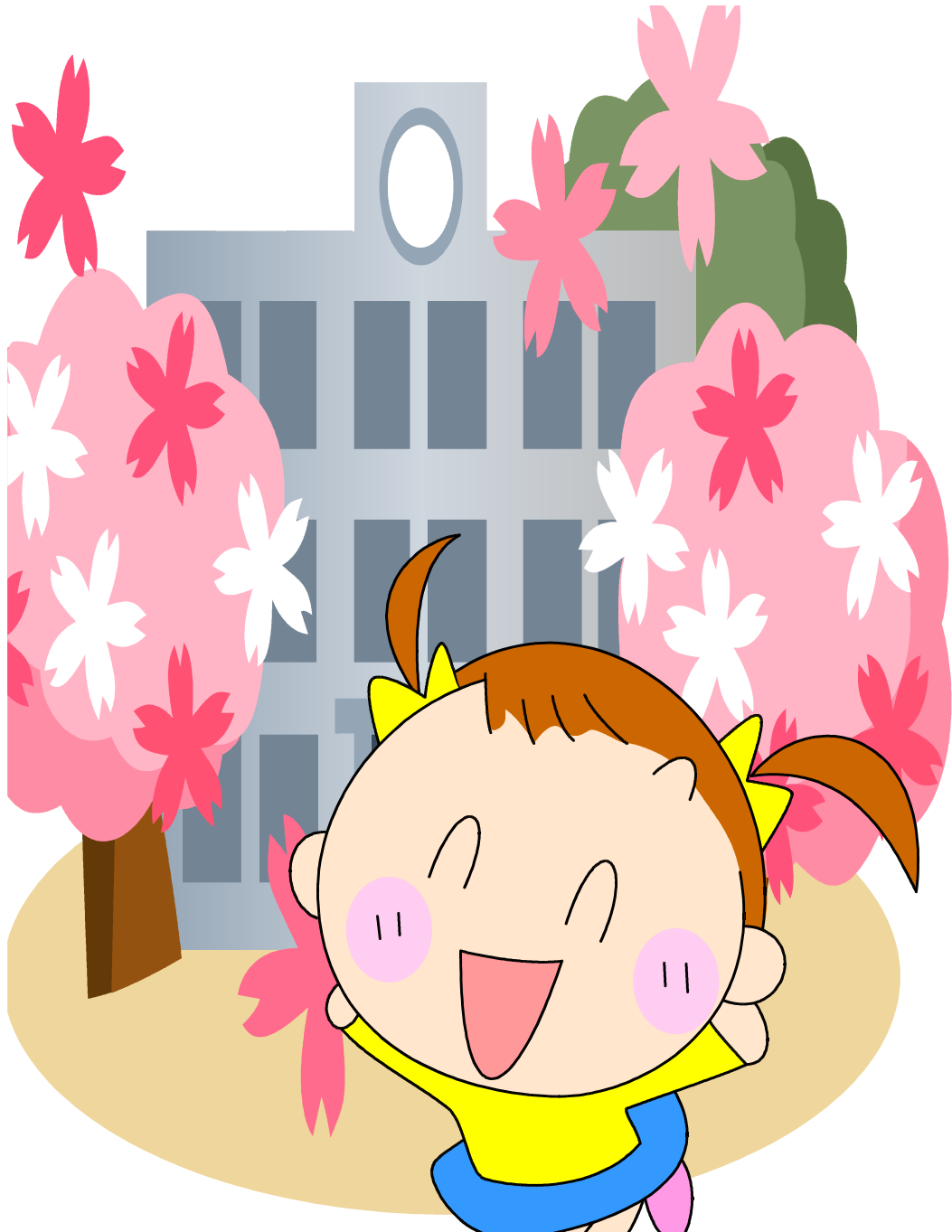
佐倉藩より
800人

仙台藩竜ヶ崎陣屋より
50人

島田町にある石神明神

おくの地区社協
さく いいだ あきお (野分のあとより)

なっちゃんは、おくの
の しょうがくせい。



あるひのこと。なっちゃんが、しまだのかまくらかいどうをさんぽしていると じんじゃのとりいがありました。

「このじんじゃのなまえなんていうの？」



「^{い し が み み よ う じ ん}石神明神」というんだよ。なんでも むかし、
^{す け ご う い つ き}ここから助郷一揆が、は
じまったらしいんだ」

びっくり！

「^{す け ご う い つ き}助郷一揆って、どんな
こと？」

おかあさん、しばらく、
かんがえて

「ん～、わからないわ」



「ん～、きになっちゃう
わ」

ど

う

し

よ

う

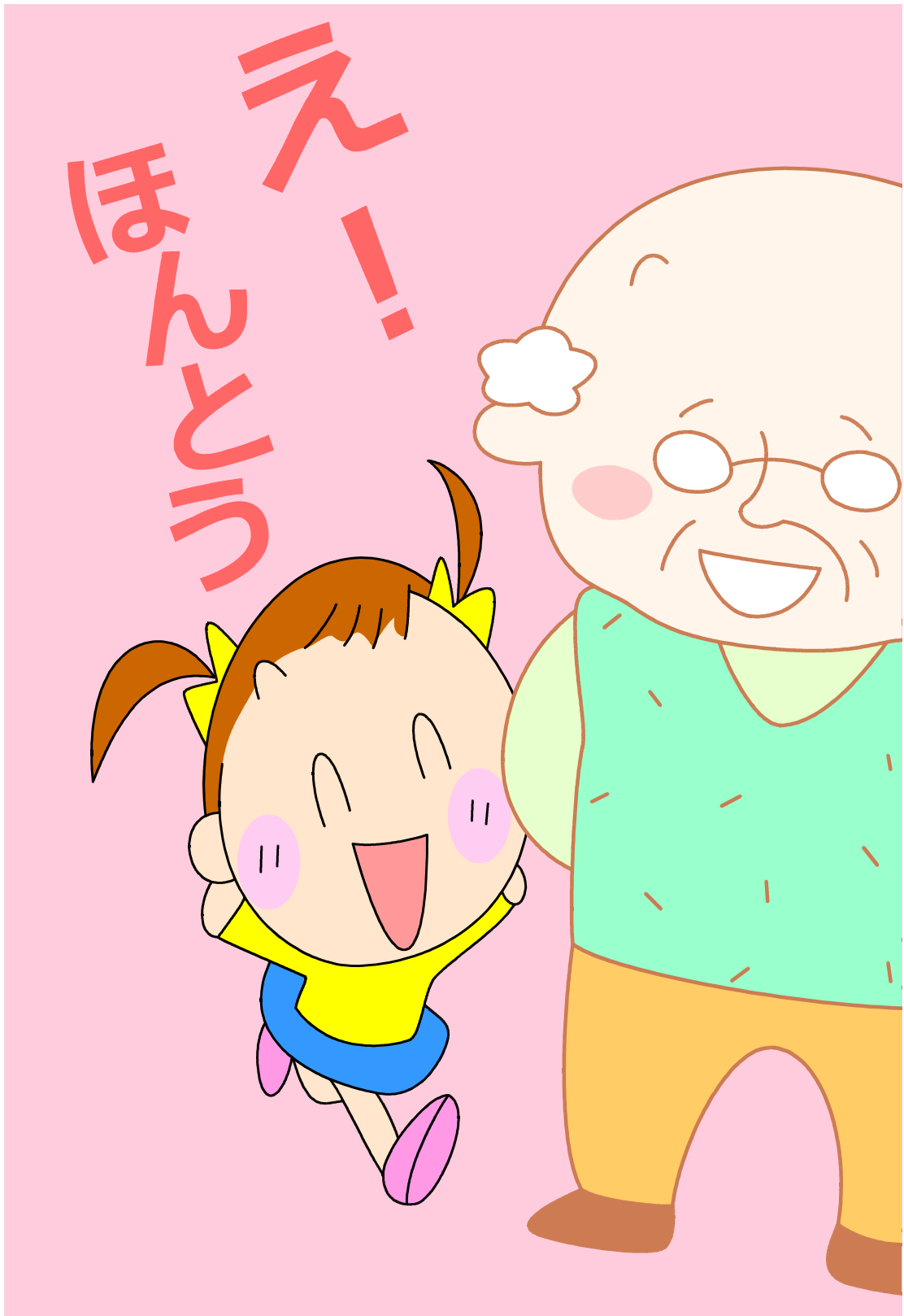


「おじいちゃんにきいて
みよう」

なっちゃん、ものをよ
くしっているおじい
ちゃんに きいてみた。

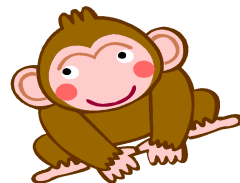
すると

「ん～、^{すけごういつ}助郷一揆ね。た
しかに ^きえどじだいこう
^{いつ}きにこのちいきでおきた
一揆なんだよ。くわしい
ことは、^{あきおさん}あきおさんにき
いてみるか。いっしょに
いってあげるよ」

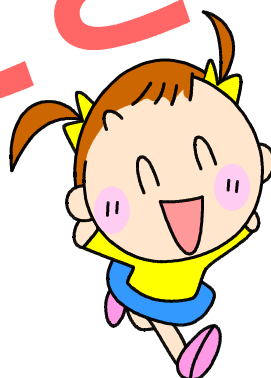




あれあれ、これはおもしろそうと、なぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。
どこかな？



わくわく
どきどき



さっそく、あきおさんのいえに いって、きいてみた。
すると、

「いいことにきづいたね。
すけごういつき
助郷一揆は、いまからや
く200ねんまえ（18
04ねんにおきたんだ
よ。そのはじまりが、こ
いしがみみょうじん
こ石神明神だったんだ
よ」

「へー、どうしてなの？」

と、きいたそのときだ
った。あたりが、クラー
くなってきた。そして、
とおくに**おまつり**のあか
りがみえてきた。

い し が み み よ う じ ん
どうやら石神明神の
おまつりらしい。

ときは、1804ねん。
そこには、たくさんのひ
とがあつまって、とても
にぎやかだった。

そのなかに3にんのお
ひやくしょうさんがい
た。そのおひ
やくしょうさ
んこそ、こん
かいのしゅじ
んこうだよ。



かつらむらの
ひやくしょう ひ よ う え も ん 兵右衛門

こいけむらの
ひやくしょう ゆ う し ち 勇七

おなじく よ し じ ゆ う ろ う 吉重郎

の3にん。

みみをすませてはなし
をきいてみると・・・。

「まったく、^{す け ご う}助郷^①だつてよ」

「こまったもんだ！」

「^{て ん め い}天明のききん^②のときも 10ねんかん^{す け ご う}助郷になかされてきたのに またか」

と、かおをまっかにして、
どなるように はなして
いた。

びっくり！

①^{す け ご う}助郷ってなーに？



^{す け ご う}助郷とはね。^{う し く じ ゅ く}牛久宿でひと
やにもつをおくるために50
にんのにんそくと50とうの
うまをよういすることになっ
ていた。たりないときは、ち
かくの7かそんが、たすける
ようにぎむづけられていた
(^{じ ょ う す け ご う}定助郷) と、だいみょうぎ
ようれつがとおるときには、
ちかくのむらからりんじに^{か す け}に
^{ご う}んそくとうまをださせた加助
郷があったんだ。

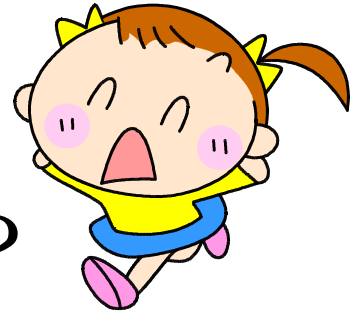
「へー」





(「野分のあと」より)

そうか！でも、
^{すけごう}助郷は、どれく
らいかかったの？



ゆうがた4じごろから
つぎのひのゆうがたまで
つづいたんだ。^{うしくじゆく}牛久宿か
らはなれた^{みつか}むらからだと
いきかえりをいれて3日
がかりになるんだよ。

たうえやいねかりのと
きに^{かすけごう}加助郷をわりあてら
れたひやくしょうは、た
まったものではなかった
んだ。

②天明の飢饉って、 なーに？



1782 年（天明 2 年）
から 1788 年（天明 8
年）にかけておきた
飢饉（さむさのため
に、**さくもつ**がとれ
ず うえにくるしん
だ）。



てんめいききんこれず むりようひやつかじてん
（天明飢饉之図（無料 百科事典より））

そのため、牛久宿のまわり
のむらむらでは 1 7 8 8 ねん
から 1 0 ねんもの ながいあ
いだ牛久宿の**加助郷**をいいつ
けられた。

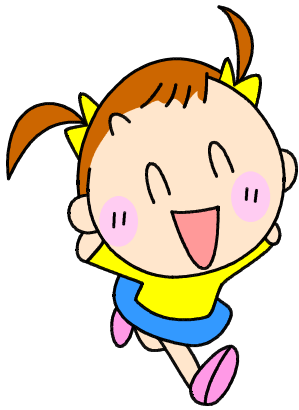
天明^{てんめい}の飢饉^{ききん}がやっと、
おわったとおもったら、
またも、助郷^{すけごう}のはなしが
・ ・ ・。

びっくり！

このはなしは、麻屋^{あさや}が、
常助郷村^{じょうすけごうむら}のふたんをへら
すために。和籐治^{わとうち}（久野村^{くのむら}）
と権左衛門^{ごんざえもん}（阿見村^{あみむら}）が、に
んそくやうまをかすしよ
うばいでもうけるために
幕府^{はくふ}にねがいでたことから
はじまった（あさやのねがい）。

それをしたた 3 にん
は、天明の飢饉のつらさ
をおもいだし、やめさせ
ようと島田村にある石神
明神にあつまった。

そして、助郷一揆の密
談をした。1804ねん
10がつ14かのことだ
った。



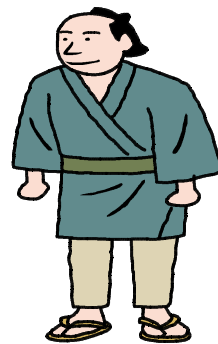
すごい！

この一揆は、

麻屋 (のうみんのごかいから)

和籐治 (久野村)

権左衛門 (阿見村)



VS



兵右衛門 (桂村)

勇七 (小池村)

吉重郎 (小池村)

の たたかいとなった。

あくる 16 にちのよ
る。^{み っ た ん}密談^{お な ば け い な り}どうり 3 にんは、
女化^{お な ば け}稲荷のまえにあつま
った。そこで、
「こんどの^{す け ご う}助郷がはしま
れば、牛久^{う し く}宿^{じ ゅ く}のまわり 1
06 か^{お な ば け}そのひやくしよ
うが なかされます。そ
れをすくうために わし
らは^{い っ き}一揆をおこします。
ぜひ ぜひとも、女化^{お な ば け}さ
まのちからをかしてくだ
さい」
と いのったのだった。

そして、**1 7**にちよる。
1 0 6 かそんぜんぶに
「1 8にちに^{おなば け はら}**女化原**にあ
つまれ」
と いうはりがみをした
んだ。

1 8にちよるまでに3
にんのよびかけにおうじ
て^{おなば け はら}**女化原**に **5 5**かそん
2000にんの
ひやくしよ
うが、あつ
まった。



ころあいはよしと 3 に
んは、^{おな ぼ け い な り}女化稻荷のまえに
たって、
「一揆^{い っ き}の頭取^{と う どり}はわしら 3
にんだ。106 かそんの
ためならいのちをすてる
かくごだ。あの 3 にん^{あ さ や}(麻屋
・和籐^{わ と う ち}治・権左^{ご ん ざ}衛門^{え も ん}) のい^いえをう
ちこわせば、おかみ^{ば く ふ}(幕府)
も きつとかんがえなお
してくださるだろう」
と いいはなった。ひ^ひゃ
く^くし^しょう^しう^うた^たち^ちは、これに
と^ときのこ^こえ^えでこ^こた^たえた。

19にちには、一揆^{いっき}ぜいは、ますますふえて、6000にんにもなった。



おくのちくからも、島田村
・久野村・小坂村・桂村・井
ノ岡村・奥原村・正直村から
たくさんさんかした。

19にちごご6じ、9
00にんが和籐治（久野村）の
やしきにいって、うちこわ
しをはじめた。

「ガンガン・ドンドン・ギーギー」
（かれらがもっていたのは、農具や大工道
具。ひとにきがいをくわえないためだ）

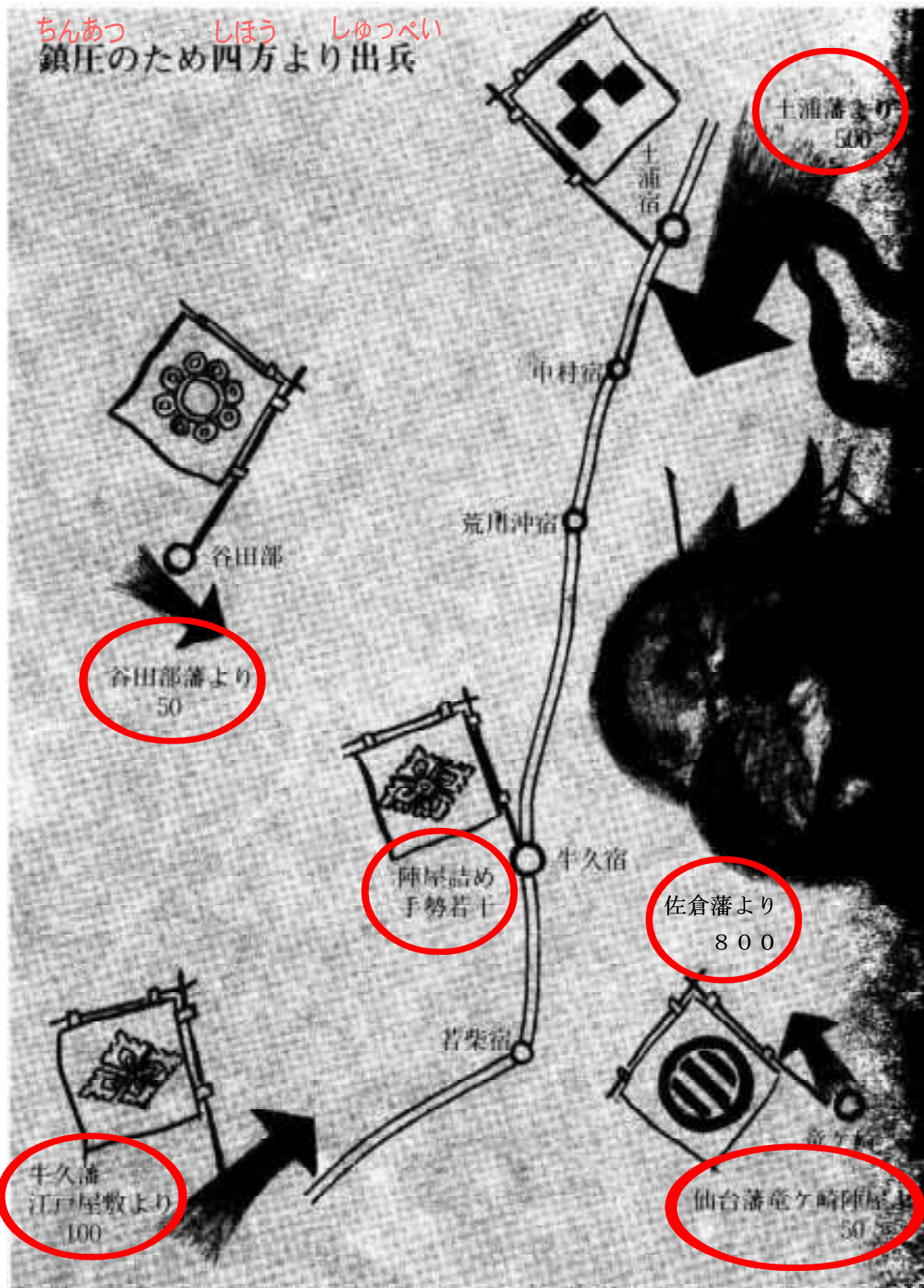
20にちごご2じ。15
00にんが麻屋（牛久宿）をうち
こわしはじめた。

21にちごぜん10じ。
権左衛門（阿見村）のやしきをう
ちこわしはじめた。

でも、もくてきの3け
んのうちをこわしただけ
で、ほかのいえや つう
こうにんななどには、めい
わくをかけなかったん
だ。

びっくり！

さわぎをおもくみた幕
府は、土浦藩などにめい
じて、おおくのぐんぜい
をださせた。



(「野分のあと」より)

それをしった一揆^{いっ き}ぜいは、しおがひくようにさ
一つと かいさんしたん
だ。

やがて、3にんは、め
しとられ、えどにおくら
れ きびしいとりしらべ
が、はじまった。

ひざのうえに30きろ
もあるいしをなんまいも
つみかさねるごうもんが
くるひもくるひもつづい
た。からだは、みるみる
おとろえていった。

あけて1805ねん1が
つ8日。からだがぼろぼろ
になった**兵右衛門**（桂村）
は、ろうのなかで、なくな
った。**勇七**（小池村）が
なくなったのは、そのあく
るひだった。

「わしは、まちがってなか
った」

と、さいごまできもちをま
げなかった**吉重郎**（小池村）
も23にちになくなった。

そのほかに なくなった
ひとは、いなかった。

こうして、一揆はおわっ
た。

この一揆いっ きのもくてきは、
助郷すけ ごうにならないことだった
が、かなわなかった。
しかし、10ねんかんの
きげんつき助郷すけ ごうとなった。

そして、幕府ばく ふのつくつ
た「宿駅しゆく えき（人ひとや馬うまをあつめておいた宿場しゆくば）・助
郷ごう」というきまりにたい
してのうみん6000にん
が、あつまって一揆いっ きをお
こなったことが、

すごい！
とおもった。

そのときだった。とつ
ぜん、まわりがあかるく
なり^{い し が み み よ う じ ん}石神明神のまえを
おかあさんと あるいてい
た。なっちゃんは、おも
った。

ん～



^{ひ よ う え も ん}兵右衛門・^{ゆ う し ち}勇七・^{よ し じ ゆ う ろ う}吉重郎
の3にんが、ろうでなく
なってやく200よねん。
3にんは、一揆^{い つ き}のしどう
し^{し よ け い}や。かならず処刑され
ることをしっていた。

それでものうみんのせい
いかつをまもるために ち
からをつくした。

びっくり!

そのご3にんの供養塔
がたてられた。しんでえ
いゆうになった3にんは、



吉重郎と勇

七のおはかは、阿
見町小池の共同墓地に
末裔にひきとられて、
いまものこっている。

ひようえもん
兵右衛門は、金剛院であったが、無縁仏
として せいりされたようで、おはかは、かくにんでき
ない。



供養^{くようとう}塔をたてたのは、うちこわしをうけた
あ^{あさや}の麻屋。(1823 ねん)

※でも、どうして 麻屋^{あさや}が、たてたのかな？

じつは麻屋は、こころのやさしい名主で 常^{なぬし} 助郷村^{じょうすけごうむら}の^{うみん}の
のふたんをへらすためにねがいでたんだ。そうだったのか・・・。

やっぱり、じもとの兵^{ひ よ}
右衛門^{う え も ん}・勇七^{ゆう し ち}・吉重郎^{よし じゅう ろ う}の
3にんと、一揆^{い し が み み よ う じん}のきっか
けとなった石神明神^{い し が み み よ う じん}が、
おくのちくのたからもの
なんだね。



さて、こんどは、なにをし
らべようかな？

あれあれ？「すごーく、たのしかった」と なぜな
ぜくん。つぎのひみつをもとめてスキップしながら
かえっていった。



またね

参照 野分のあと（木村有見）
おはなし歴史風土記（茨城県）
牛久助郷一揆の時代（坂 弘毅）

